

そびえ立つ カントリーエレベーター

真中地区の中心部にそびえるカントリーエレベーター。これは昭和四十七年に約一億五千万円をかけて建設されました。カントリーエレベーターというのは、米や麦などの穀物を共同で乾燥調整し、貯蔵する「大規模乾燥調整貯蔵施設」のことで、真中のカントリーエレベーターは、およそ二万六千俵の処理能力があります。

大阪など県外へ出荷されます。カントリーエレベーター見学のお申し込みは、事前に大館市農協 ☎49-5481 へどうぞ。

ふつう、農家は稲の刈り取りから倉庫に入れるまで全部自分

で管理しなければなりません。カントリーエレベーターでは、刈り取った稲をそのまま出せば乾燥から貯蔵、そして売り渡しまで管理してくれます。

ここではこれまで「アキヒカリ」と「キヨニシキ」を扱ってききましたが、今後は県産米のエース「あきたこまち」も取り扱われます。ここに貯蔵された米は、すべて国に売り渡されたのち、おもに「アキヒカリ」は県内に、「キヨニシキ」は東京、



ちびっ子ギャラリー

おとうさん

真中保育園



さとうたかひろちゃん
魚釣りにつれていって
くれるよ。



わだじゆんいちちゃん
おとうさんの全部が好き。



あぶかわさきこちゃん
トランプして遊んでく
れるよ。



ミニガイド

真中農林業

多目的研修集会施設

真中農林業多目的研修集会施設は、真中公民館と接続しており、五百四十四平方メートルの多目的ホールのほか、ミーティングル

ームなどがあります。このホールでは、バレーボールやバドミントン、といった軽スポーツができます。

また隣接したグラウンドでは、野球や運動会もできます。

この施設と公民館グラウンドの利用をご希望の方は、真中公民館（☎49-5928）へお申し込みください。

のと推定される。

米代川の船着場があり、また、冬季積雪期には、綴子より、二井田村から扇田への継馬がこの村で継いだ。

「正保国絵図」では小袴新田村とある。明治八年、一時真中村に合併。

大開とも書く。村内に大沢鉛山があるがその起源などは不明。明治八年、一時真中村に合併。

出河とも書く。天正十九年（一五九〇）の豊臣秀吉知行朱印状写に見えるのが初見。江戸初期より開発が進められ、慶安元年（一六四八）に一村検地が実施されたようであるが詳細不明。

※なお、高戸谷は櫃崎に、下川原は出川に編入されている。（角川書店・日本地名大辞典より）

真中の地名と歴史

〈櫃崎〉

近世初期より開発が進み、「正保国絵図」では櫃崎新田村とある。

〈赤石〉

中世、当地に居住したと伝えられる浅利氏の家臣、赤石氏の名に由来すると推定される。

南部の浪人治兵衛という者が本宮に住し、当地を開発し、のち移住し十三代肝煎を勤めたこと伝えられる。享保三年（一七一八）に赤石村となる。

〈板沢〉

戦国期に見える村名。天正十九年（一五九〇）の史料に村名が見え（秋田家文書）、戦国期には一定の村落が開発していたも